

崖 響

～燃えろ、熱くなれ、足利健児！～

共通テスト激励特集 7 号
2020/12/17 発行
栃木県立足利高等学校
進路指導部

3年生の皆さん！共通テストを前にしてますます集中力が高まりますね。先日受験手帳を配布しましたが、昨年度の卒業生から、この時期からの皆さんへのアドバイスがたくさん載っています。是非読んでみてください。

また、今年は冬休みを前にし、共通テスト激励特集 1 号として、担任の先生方より激励の言葉をいただきました。

1 組担任 鈴木裕之先生より

3年生の皆さん。共通テストに向け最後のひと踏ん張りの時ですね。三者面談で厳しい話もあったかもしれませんが、受験に「絶対」はないので、最後の最後まで努力を続けてください。そのために冬休みも、学校があるときと変わらない生活を送りましょう。共通テストは午前中から始まりますので、実際の時間を確認して試験時間には頭がフル回転できるように、生活リズムを作ってください。その上で、1日12時間の学習時間を確保しましょう。お昼までに4時間、夕飯までに5時間、寝るまでに3時間というペース配分を参考に。冬休みは大晦日と元旦以外は学校が開いていますので、学校を利用しても良いでしょう。また、最後の追い込みということで、家族の皆さんが必要以上に気を遣ってくださると思いますが、それを当然のように感じて威張らないでください。「自分はこんなに頑張ってるのに…」と考えがちですが、あなたの人生が懸かっているのですからあなたが頑張るって当然なんです。だから、威張らない・腐らない・諦めないで、あと少しを乗り切ってください。心から応援しています。

2 組担任 山根幸治先生より

この冬は新しいことよりも復習に重点を置きましょう。2学期後半から問題演習を多くこなしてきた皆さんは、復習の時間が思うように取れなかったことと思います。先日配布された受験手帳を見ると、多くの先輩が「直前に復習した内容が本番出題された」と述べていることがわかります。今年受験する皆さんにも同じことが起こるとすると、この冬休みを復習強化旬間として位置づけることは非常に有意義なことです。一次試験である共通テストでは今までやってきた基本的な問題を確実に得点に繋げられる力が求められています。今まで以上に復習に取り組み、共通テストで実力が発揮できることを期待しています。



3 組担任 南保浩之先生より

いよいよ共通テスト本番を迎えます。今までの取り組みを信じて自信をもって臨んでくださいというのがやはり今の私の心中です。ありきたりの聞き慣れた言葉になりますけど。ただ、一介の地理歴史科の教員としては、残された時間の中で地歴公民をもう少し時間を取って復習に取り組みしてみてください。それは、共通テストの最初の科目が地歴公民だからです。試験を受けてみて手ごたえがあれば、その後の科目の試験に臨むにあたってのメンタルにも影響を与えるのではと毎年思っているのです。

理系のみなさんにとっては、共通テスト終了とともに地理の学習は終わります。おそらく受験での重要度は低い科目かもしれませんが、毎年受験の感想で耳にするのが「もっと地理をやっておけばよかった」というものです。後悔しないためにも問題集などを繰り返し解き直すなどして備えてもらえれば幸いです。

試験本番まで時間は限られていますが、結果が出せるよう最後までしっかりやり抜いてください。健闘をお祈りします。

4 組担任 五十部浩二先生より

共通テストまで残りわずかの期間となりました。今から全範囲をもう一度復習することはできませんので、勉強したところは必ずできるようにすることを心掛けましょう。一つ一つの積み重ねが、本番に生きるかもしれません。出題された、されなかったは結果論なので、今できることだけに集中して下さい。

数学に関して言えば、実生活に結びつけた問題なので、計算が非常に煩雑になり、分かっていても時間がかかる、計算ミスしやすいということを直前演習で実感していると思います。全員が満点を目指している訳ではないと思うので、自分の目標を達成するための作戦を立てましょう。時間配分もIAなら各大問20分、20分、15分、15分、II Bであれば各15分を目安に演習して下さい。1つの問題に固執せず、全体で何点取るかを考えましょう。全ての問題が解けなくても罪悪感を持たず、次に行くこと。演習から本番を意識して下さい。健闘を祈ります。

5 組担任 飯村裕樹先生より

全国の受験生の誰もが共通テストを受けることは初めてです。そういう意味では皆同じです。本番の試験はやはり緊張します。私もセンター試験を受けたときにがちがちに緊張したことを覚えています。何もかも完璧な状態で臨める受験生など、きつといません。尽きない不安を振り払うために、できることを決めてやり尽くしましょう。日々の努力の積み重ねだけが、不安を自信へと変えてくれます。焦らずに、かつ丁寧に、そして本質的に、上滑りしないように。

そして、最後の最後まで諦めないこと。「心を燃やし」続けましょう。現役生の学力は、試験当日まで伸び続けます。自分をしんじて、最ゴまで諦めないこと。自分自身を自分が信じられなくなっちはいけません。『人事天命～やるべきことはやった。あとは天命にまかせる～』…そんな心境になれるまで、試験本番までの日々を充実させてください。私は「信じる、君たちの」素晴らしい未来を「信じる」。

(表記、ひらがな漢字カタカナ、カギ括弧は、まま)